

第57回（平成24年度第4回）番組審議会議事録

開催日時：平成24年12月18日（火）午前10時35分～11時45分

会 場：西宮市職員会館 第1中会議室

1. 出席者の状況

委員総数	：7名
出席委員	：5名
欠席委員	：2名

放送事業者側出席者	代表取締役社長	：1名
	制作主幹	：1名
	総務部	：1名
	西宮市広報課	：1名
	取締役出席者	：1名

2. 議事に入るまでの経過

事務局より、交通機関の遅延を考慮し開催を見合わせていたが、定時を5分過ぎたので審議会に入る旨の発言の後、議長に議事進行を依頼。

議長は第57回番組審議会を開催する旨を述べた後、社長に放送事業者側の出席者の紹介を求めた。

社長は委員の出席に謝辞を述べた後、会社側より出席する制作主幹と総務、広報課から出席者、及び取締役で出席者を紹介し、各々挨拶をした。

議長は本日の出席状況の報告を事務局に求めた。

事務局は委員7名中現時点で4名が出席、過半数を満たしており審議会が有効に成立する旨を報告した。また、途中で出席委員が増えた場合は番組紹介後に改めて報告する旨を述べた。

3. 議題

(1) 番組の審議

議長は、議事次第に従い議題の1番、番組紹介に移る旨を示した。本日の審議対象番組は「國友ゼミナール」であり、議事次第の通り「番組内容の説明」と「テープによる番組紹介」を一括提起するよう事務局に求め、質疑応答は「番組内容の説明」と「テープ番組紹介」の

終了後に一括して受ける旨を委員に述べた。

〔事務局による番組内容の説明〕

主 幹

お配りした資料に掲載しているように、今日は毎月第1木曜日21時から22時30分頃まで生放送でお送りしている「國友ゼミナール」を取り上げている。担当は上村くに子さんという甲南大学文学部の教授をされている方と、上村先生の出版関係のお知り合いでフリーライターの方の今津朋子さんのお二人。開局当時から、時間帯や形態を変えながらも15年間番組を担当して頂いている。以前は収録の番組だったが、2011年から月1回の夜の生放送切り替えた。

出演者の紹介の欄に書いたが、大学教授らしくなく堅苦しくないゆるいトークを売りにしている。今月12月6日に放送した約1時間30分を30分程に編集した。番組オープニングから来られたゲストコーナーの抜粋に、ゲストが帰られた22時を過ぎてお二人だけになった時間帯の部分を加えて、前半・後半合計30分としたものをお聞き頂く。

〔カセットテープによる番組紹介〕（平成24年12月6日木曜日放送分）

事務局は番組紹介中に委員の出席が1名増え、最終的には7名中5名の出席となった旨を報告した。

〔番組に関する意見交換〕

議 長

番組を聞いて頂いたが、これについて質疑応答に入る前に、番組についての質問を先に受ける事にする。何か質問はないか。

委 員

この番組は1時間半あって、今回は最初に美術館の方々がゲストに来られ30分お話をされ、この後の1時間がフリートークという流れか。

主 幹

ゲストの方にもよるが、今回のゲストは22時までいらっしやった。聞いて頂いたのはゲストコーナーの前半部分だけ。この後、県立美術館（以下県美）で現在やっている（放送日の翌々日に開催される）「明後日の美術館」というフォーラムの紹介が続いている。実際の番組の冒頭の15分と22時からの15分くらいをつなげたものを聞いて頂いた。

委 員

ではゲストによって1時間になったり、もっと短くなったりするのか。

主 幹

お時間の都合で30分くらいで帰られる方もいた。話の内容にもよって変わる。ゲストが来られる時は原則として21時から出演して頂くことにしている。

委 員

当初収録番組であったのが生放送に変わった理由は？

主 幹

当初は 30 分の番組を毎週放送していたが、スケジュールの問題もあって月に 2 回に変更。この番組は殆ど打ち合せをしていない。30 分の収録番組だと念入りに打ち合せが必要となるが、打ち合せで話す事をそのまま生放送にのせた方が面白いのではないかと思ったのがきっかけ。収録番組だと 30 分番組を作るのに 1 時間以上はかかる。月 2 本分をまとめて録ると 2~3 時間はかかってしまう。収録でそれだけ時間がかかるのに比べたら同じ時間でも生の方がいいのではという私からの提案した。お二人とフィックスして、どの時間帯なら来られるか検討したところ毎月第 1 木曜日の夜となった。災害放送の使命と言う点から考えても、できるだけ生放送の方が好ましいという事になった。

議 長

他に質問はないか。ご意見、お感じになった事を忌憚のないご発言をお願いしたい。

委 員

非常に面白かった。特に「佐川急便」の話は女性には面白いのではないか。是非続けて頂きたい。ただ 1 点だけ、特に前半は活気があって話が盛り上がっているのは分かるが、若干話が交錯していて聞きづらいところがあった。その点が気になるくらいで、内容としては非常に面白い、いい番組だと思う。

委 員

前半は普通の中年女性が喋っているというイメージで、内容の問題とは別に“うるさい”という感覚があって耳に障った。後半になって上村くに子さんの「先生らしくないのが売りであり欠点」というこの方の個性が見えてきて段々面白くなってきた。多分この番組をずっと聞かれている方は楽しみにしてきいておられるのではないかと思う。

議 長

説明資料に「上村くにこさんとの“コンビ芸”をより面白く、より知的に磨いて」とあるが、コンビ芸は成功していると思うか。

委 員

今津さんの方は仕事面では普通の方という感じがするが、そこに上村さんの個性が加わって、それが面白いと思った。

議 長

二人のやりとりが？

委 員

はい。

委 員

楽しく聞かせて頂いた。先生らしくない喋り方だった。今津さんとのやりとりはよかったと思う。聞きづらいところもあったが。

議 長

関西と言えばコンビ芸で、芸と言えば吉本の掛け合いなどがあるが、確かに前半は殆ど聞き取れないくらいの相槌が 3 回ほど続けて入った。ゲストによって多少雰囲気は違うか。

主 幹

この回の際はお二方で、声のトーンやキャラクターが違ったので分かりやすい方だった。

最初の方の「ちょっと休んでますが」という発言について補足すると、今津さんのライター関係のお仲間で阪神間の飲食店を取り上げているフードライターの方と電話をつないで話したり、来られる時は来て頂き西宮市内の飲食店を紹介して頂いていた。現在は産休で休んでいるが、そのようなテーマコーナーもあった。

ジェンダー論で言うと後半にそのような話に移って行くが、今回は話が噛み合わないにしても今津さんが意図した所に上村先生が乗って来なかったが、以前は上村先生が歯に衣着せぬように今津さんの言葉に乗ってジェンダー論が盛り上がってしまい、かえって今津さんがムッとして若干険悪な雰囲気になったことがあった。お互いいろいろな意見をお持ちなので、そのようにある意味“ガチンコ”な乗りがある。今日聞いて頂いたものでは省略しているが、メッセージやお便りがこの話の後で届いた。

議 長

目線と言う言葉がいろいろ出てくるが、男性はお聞きになってどう思われるか。

委 員

やはりゲストが入っての最初のところは聞きにくかった。それは生でライブ感があっていいのだが、実際に聞いてらっしゃる方からすればこの時間帯ではキツイのではないか。後半のお二人のトークはボケとツッコミの担当がはっきり分かれていて、面白く興味深く聞かせて頂いた。収録番組が生番組になった事で、ライブ感が出て生の雰囲気が番組全体の売りとなっているのではないか。特にお二人の個性が出ていてよかった。

議 長

ゲストはお二人が主に選ぶのか？

主 幹

お二人に関係ある方が選ばれている。今津さんは出版関係でライター・編集をされているのでそのお仕事からみのつながりで来られる。局側はからんでいない。

議 長

広報課はいかがか。

広報課

90分という番組の長さはリスナーからしたら長いのか短いのか。90分ラジオを聴き続けるというのはどうなのか。

主 幹

私が番組を作る時はリスナーの感覚で聞いて作っているが、60分過ぎたら全部を聞いているとは思えない。どこかを拾って聞いてくれたらいいと思う。集中して聞くのは15分から20分が限界だと思うが、その点では以前より短くなったとは言え曲にいく返の1トーク1トークが長いように思う。特にゲストの方が二人になったりたまにしか来られない方だとしっかりお話を聞きたいという気持ちがあるため長くなりがちだ。

話す内容に関して事前にしっかり打ち合わせをすれば短くまとめられるとは思いますが、それこそが収録制作を生放送に転換した部分でもあるので必要最低限でよいと考えている。今回は県

美の情報部分に関しては間違いのないようにしっかり打ち合せをしていたが、佐川急便のくだり（本の紹介）はむしろ意図的に打ち合わせはしていなかった。（事前に先生に本を見せたりということはしなかった）

長さとしては90分が限度だが、ネタがない時は80分くらいで終わる事もある。今回は22時半過ぎに終わっている。

委員

そういう時は曲を入れたりして延ばすのか。

主幹

音楽をかけて22時半くらいにはしている。この後23時迄トークなどの番組がないので音楽番組でつないでいる。同じく木曜日のこの時間帯で「にしきた活性化協議会」さんにして頂いている番組があるが、それは番組名からして「ラララにしきた90分ぐらい」と、あえて「90分ぐらい」という曖昧さを売りにしている。これは見直すかもしれない。喋り手さんの個性をどこまで生かすかが重要なのだが、タイトルのインパクトで聞いて頂ける事もあるかもしれないので、ゆるいタイトルの方がいいかもしれないと思っている。

広報課

開局当初から固定リスナーがついているのか？

主幹

いらっしゃると思う。ウチの局はサイレントリスナーが多いが、常連のリスナーにはこの番組に定期的に葉書やコメントをくれる方もいる。上村先生は大学のフランス文学の教授なので全世界にお友達がいらっしゃり、サイマル放送のお陰でそういった方々にも聞いて頂いていると思う。ゲストに来て頂いた方が宣伝をして下さり、そのお友達が聞いて下さっているようだ。

議長

何年もやってらっしゃるからファンもついていらっしゃると思うが、放送で大学の先生と言うのは明確にしているのか。

主幹

タイムテーブルには載せていないが、ホームページの自己紹介の所には「文学部教授」と載せている。

議長

「より面白く、より知的に」と紹介レジюмеにあるので、放送局としてはどういう人物が放送しているか少しでも書いておいた方がいいのでは。

主幹

刷り物のタイムテーブルだと提供者は書くが肩書までは全員書かない。今回生放送に変えた時に大学のゼミらしい雰囲気でも聞いてもらえたらと番組名も「國友ゼミナール」に変えたが、実在する「上村ゼミ」にするのは避けた。因みに「國友ゼミ」は実在しないが、よく聞かれるらしい。

議長

お二人の個性で運んでいる番組だと思う。内容の良し悪しは別として、特定の企業名が出てくる事に関してはどうか。今回は「佐川急便」が何度も出てくるが。

主 幹

今津さんは出版関係で上村さんは大学教授なので、その点は十分に分かっているが、今回は本の題名自体が「佐川男子」なので避けて通れない。しかし、佐川急便がどうかといった話にまでは至っていない。その辺りは十分心得て話しており、他の時は企業名を出したりはしていない。

議 長

他に意見はないか。

取締役

社長はいかがか。

社 長

まだ全部の番組を把握してはいないが、営業をするのにどういった番組なのか把握しておきたいと思っている。先ずはいい番組を作り多くの方々に聞いて頂きたい。

広報課に伺いたいが、3年に一度くらいは市民にさくらFMについての意識調査をしているようだが、今回は25年度くらいにまた実施するのか。

広報課

25年度に実施する。

社 長

評価も様々だと聞いているが、今までとの比較としてサイマル放送が始まって反響が変わってきているとの事なので、数値的につかみやすくなったと思う。より現実を把握できるように設問の設定の打ち合せなどを望んでいる。

取締役は現在も全関西ケーブルビジョンの番組審議会の委員をされている。取締役からも詳しく教えて頂きながら、他局が番組審議会をどのように運営しているかを知り、経営面につなげる意味でも皆さんに情報を披露しご意見を頂きたいと個人的に思っている。

さくらFMがより良くなり、緊急時にしっかり機能するという開局当初の目的をおさえて地域放送局として良い情報を皆様に提供して、西宮市民の皆様にさくらFMの認識を高めて頂けるようにしたい。

番組審議会に出席するのは今回で2回目だが、委員の皆様はしっかり番組を聞いて下さりきっちり意見を述べて頂いていると思う。

大分パーソナリティーの方々の顔と名前は覚えたが、まだまだ全員は覚えていないので、皆さんともっといろいろな話が出来るといいなと思っている。この審議会のご意見もしっかり聞いて番組に反映していきたい。

議 長

大変心強い。

取締役

番組の内容に関しては、かぶりが多くて少しうるさいというのが第一印象だった。

審議会の進め方としては、出来れば前もって二つか三つの番組のテープを送って予め聞いておいてもらい、審議会ですぐに審議に入るのがいいのではないかと。今回は90分の番組を30分に編集しており、元がどのような番組だったか分からなくなる。

今回の番組では、県立美術館・柿衛文庫、文化・芸術の話の流れでいけば、大津の佐川美術館の話に移るのかと思っていたが「佐川男子」という違う方向へ進んだ。90分全部を聞かないと流れが分かりにくい気がした。

議 長

90分というと大学の講義ひとコマの長さにあたり、長いので工夫が必要かと思う。

委 員

前もってテープを頂くという方法も良いが、審議する番組の On Air の内容と日時が前もって分かっており審議会までに聞ける日程であれば、聞く努力は出来ると思う。毎回「今回どんな番組を聞くのだろう」という気持ちを持っている。

議 長

フランス文学の先生なので、フランス文学とアメリカ文学やロシア文学との掛け合いなどがあると面白い。

主 幹

そういう掛け合いもある。今回は編集でカットしたので曲はかかっていないが、上村先生が年に1度学会等でフランスに行かれた際に購入したフランスの曲を番組内でかけている。ギリシャ神話の研究もなさっているのでその話もされる事がある。

議 長

アカデミックなものである必要はないが、大学交流がさかんな西宮市の背景もあるのでそれをうまく生かしてほしい。それぞれの文学の裏話の掛け合いなどでも面白いものが出来ると思う。

ひとつ質問を。審議会の召集状には「さくらFM」というのがどこにも出ていない。「さくらFM」と「西宮コミュニティ放送(株)」との関係が分かるように、どう使い分けしているか。「さくらFM」をロゴタイプのように使って会社名を付けるなど、関係性が分かるように使い方の会社の方針を決めてはどうか。

取締役

「さくらFM」は愛称で「西宮コミュニティ放送(株)」は正式な会社名。

議 長

組織としては株式会社だが（愛称との関係性が分かるような使い分けが必要では）。

議長は委員にその他特にご意見がない旨を確認し、事務局に伝達事項を求めた。

事務局は次回の審議会の日程に関して日時調整をしたいため調査票をご提出頂き、後程ご連絡致する旨を伝えた。

事務局は次回開催候補日時を3例挙げ、今回欠席委員と日時調整をした上で決定し、改めてお知らせする旨を伝えた。

議長は協議事項を全て終了したので本日の審議会を終了し閉会する旨を述べ、社長に挨拶を要請。

社長は審議会でご意見を頂いた事への謝意を述べ、閉会にあたって挨拶を行った。

議長は、午前11時50分に審議会閉会を宣した。

議事の経過を明確にするため、議事録を作成し、委員長及び出席委員の記名押印をする。

平成24年12月18日

西宮コミュニティ放送株式会社